

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101846		
法人名	有限会社 であい		
事業所名	グループホーム であいの郷 長住		
所在地	〒811-1362 福岡県福岡市南区長6丁目7番29号		TEL 092-512-2562
自己評価作成日	平成29年10月30日	評価結果確定日	平成30年03月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様で出来る事はしてもらい、お一人お一人のペース・希望を大切にお手伝いさせて頂いております。また地域との繋がりも大切に出来る限り地域行事への参加もしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成30年02月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市南区郊外の閑静な住宅街の中に民家改造型の、1ユニットで定員6名のグループホーム「であいの郷長住」がある。町内の行事(地域の夏祭り、防災訓練、清掃活動、お月見会)に、利用者と職員が参加して、地域交流の輪が広がっている。法人内保育園から園児が毎月来訪し、歌や踊りを披露して、利用者の楽しみな時間を過ごし、利用者が自分を取り戻す瞬間でもある。協力医療機関の主治医による毎週の受診と、看護師、介護職員が協力して、充実した医療体制を整え、ターミナルケアに備えている。また、調理上手な職員が冷蔵庫の食材を見て、その日の献立を利用者と一緒に考え、テーブルを囲んで一緒に食事する様子は楽しそうで、ほとんどの利用者が完食し、利用者の健康増進に繋げ、見守る家族は喜びと安心に包まれ、ホームと深い信頼関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有として毎年理念の研修をしており、人事考課にて理念の評価もしております。また毎月のミーティングでも利用者様の目標や評価について検討しております。	法人理念と「利用者さんの気持ちを尊重し、その人らしい生活をまっとう！」という介護目標を掲示し、毎日の申し送り時に出勤職員で唱和して、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解し、利用者本位の介護サービスの提供を行っている。定員6名の家庭的でゆっくりと流れる時間の中で、利用者の生きがいづくりに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の公園掃除に始まり、祭りへの参加、お手伝い、運営推進会議への参加もして頂き、貴重なご意見を頂いております	利用者と職員は地域の一員として、夏祭り、お月見会、防災訓練等に参加している。また、月1回の公園清掃、その後のお茶会には管理者も参加し、地域住民と顔繋ぎを行なっている。毎月1回の法人内保育園児との交流は、利用者の大きな楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度長住・西長住の事業所が集り、地域の為に何が出来るのか会議をしている。RUN伴に参加したり、認知症サポーター講座のお手伝いに参加させて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近くのグループホームの方も参加して頂いたり、輪も広がりがつつある。1事業所で問題を抱え込むのではなく、共有し助け合いが出来つつある	会議は自治会長、民生委員、社協、他事業所管理者、地域包括支援センター職員が参加し、2ヶ月毎に開催し、ホームの運営状況や取り組み、課題を報告し、参加委員からは、質問や要望、地域の情報提供等を受けている。会議の中で地域の高齢者の状況について話し合う等、活発な意見交換の場になっている。	家族が参加しやすい日時を聴き取り設定し、家族と地域と事業所が協力して、利用者を支える体制の確立を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括センターさんが参加頂いているが、他の市町村との繋がりはあまりない。アプローチの方法もわからない。	管理者は、行政担当窓口でホームの空き状況や介護の疑問点、困難事例、事故等の報告を行っている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を理解してもらい、アドバイスや情報を提供して貰い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は毎年行い、身体拘束を行なう事無く介護出来ている。スタッフには身体的・精神的に負担は掛かっているだろうが、そんな雰囲気は見せずに介護に取り組んでくれている	身体拘束について職員会議や研修会の中で学び、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証し、職員一人ひとりが自覚して、言葉かけや対応に配慮したケアに取り組んでいる。また、玄関の扉は日中は施錠せず、利用者が職員の見守りで自由に出入りしやすい環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修も毎年行っており、日々気を使って介護を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様のご協力もあり、成年後見制度を使う事が無いが、そういう制度もあるという事は、研修でも行い知っている程度。	権利擁護の制度について、法人全体の研修会で学ぶ機会を設け、自己判断が困難になった利用者には、その方が不利益を被らないための支援体制の確立を目指している。職員は、制度の重要性を理解し、資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば、説明を行なっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接契約書・重要事項を読み上げ説明し、その後質問の時間を設けて契約書にサイン・捺印を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一度の運営推進会議にご家族もお誘いしておりますが、参加された事はありません。苦情や事故報告は運営推進会議で行っております	職員は利用者の日常生活の中から思いを聴き取り、家族の面会時に職員が家族とコミュニケーションを図り、意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させている。また、家族には毎月、個別の通信を発送し、利用者の暮らしぶりを伝えている。面会の少ない家族には、電話で利用者の近況を報告し、希望を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでスタッフの意見を傾聴したり、年一回の人事考課にて更に意見を吸い上げております。	職員会議は毎月定期的に行われ、カンファレンスや研修会も兼ねて、時間をかけて実施している。職員の意見や要望、アイデアが活発に提案され、意見交換しながらホーム運営や業務改善に反映させている。また、「今日、ミーティングやって下さい」と、職員から声がかかる等、職員の積極的な姿勢が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年人事考課を行い会社とスタッフの意見・意思の疎通をこ行ったり、普段よりスタッフが意見を言いやすい環境が出来ていると思います。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢様々な職員が生き生きと働いていると自負しております。	管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所の役割分担で、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。職員の募集は、人柄や意欲的な人材を優先し、年齢、性別、経験の制限は設けていない。また、法人全体で、産休、育休制度を設け、女性が安心して働き続けられるよう支援体制を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者様の人権に関する研修を毎年行い、普段よりスタッフには重々言い聞かせております。	利用者の人権を守る介護について職員間で話し合い、法人研修で、人権教育、啓発活動に取り組み、職員一人ひとりが理解して、利用者の人権を尊重した介護の実践に取り組んでいる。また、ホームの目標の中に、「利用者一人ひとりの気持ちを尊重する」と明示し、職員は常に理念と目標を自覚して、介護サービスの提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月部署研修と全体研修にて新人のみならず、経験者も力を伸ばせる環境にあり、新人には新人研修を設け、各部署でも新人教育担当を決めて指導しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議にも他法人の管理者様に参加頂いており、またこちらも運営推進会議に参加させて頂いております。また2か月に一度地域ネットワークの会合にも参加させて頂いております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやご家族様からの意見、本人様のお話を聞き、入居者様が不安なく安心して生活出来るように努力しております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お電話や直接お話を伺い、よくご相談を頂いております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接要望をお伺いしております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や、自分の事は出来る限りやっってもらう様に意識しております。血洗いや洗濯物たたみなど。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や運営推進会議にお誘いしております。またご家族と外出もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の行きたい所などに行ける時は外出しております。	利用者の希望に応じて馴染みの場所に出かけたり、家族と一緒に外出に出かけ、利用者が長年培ってきた人間関係や地域社会との関わりが継続出来るように支援している。また、入居後、親しくなった利用者同士の仲の良い関係や、交流のあるデイサービスの利用者との馴染みの関係も大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順を何度も変えたり、利用者様同士が仲良くなれる様に工夫しております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで対応させて頂いており、契約終了後も必要に応じご相談にのらせて、出来る事は対応いたしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人希望から家族希望より短期・長期目標を作成し、現場にて目標達成へ向けて支援させて頂いております。	職員は利用者とのコミュニケーションを取りながら、日常生活の会話の中から、思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有し、日常介護に反映させている。意向表出が困難になった時には、家族に相談したり、職員間で話し合い、利用者の表情や仕草を観察しながら思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネからの情報提供や、ご本人様・ご家族様からお話をお伺いし、アセスメントを作成しております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者様全員の動きを把握し(センサーも使用)、転倒がないか、困った事はないか、声掛けや見守りをして1日を過ごして頂き、必要以上の支援がない様に心がけております		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族様の意見、スタッフやドクターの意見を総合し計画作成しており、作成後ご家族様(ご本人様)のサイン・捺印を頂いております。	家族面会時に、職員が利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、担当者会議を開き、職員間で話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎で作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と連絡を取りながら、その都度見直しを図り、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の記録をし、その記録も見て計画作成に利用しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の諸事情により、病院受診の代行やお買い物同行、買い物代行とさせて頂いております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の公園掃除参加や、地域行事への参加をさせて頂き、利用者様の地域との関りを大切に過ごさせて頂いております。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に基本協力医療機関の病院をご紹介しますが、もしかかりつけ医のご指定があれば対応させて頂きたいと思っております。	利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と毎週受診が出来る協力医療機関を選択してもらい、必要に応じて他科受診の支援を行っている。また、法人内事業所の看護師による毎週訪問と介護職員が協力し、利用者の状態変化に合わせて家族や関係者と話し合い、安心して任せられる医療体制を整えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関には毎週受診しご相談させて頂いております。職場内看護師には24時間いつでも連絡を取れる様にしており、指示を頂いています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来る限り利用者様のお見舞いも兼ね看護師やケースワーカーさんとお話をさせて頂いたり、すぐにお電話頂けるよう連絡交換をさせて頂いております。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にまず現在の終末期希望をお聞きし、体調が変わってきた頃に再び担当医、家族と共に終末期対応を決定し、施設での看取りが決まれば担当医は週2回訪問診療を実施してまいります。	契約時に利用者の重度化に向けた支援体制について、利用者や家族の希望を聞き、ホームで出来る支援について説明し承諾を得ている。利用者の状態変化に合わせて家族と段階的に話し合い、主治医も交えて方針を確認し、関係者全員で共有して利用者の重度化に向けた支援に取り組んでいる。今までに看取りを経験し、職員の介護力の向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修を年1回行っております。また緊急時にはかならず管理者が常務へ連絡・相談し指示を貰い、応援スタッフが来れる様にしております。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は地域の方々と共に年一回行っておりますが、地震や水害の訓練は出来ておりません。	年2回の防災訓練を、消防署の協力と指導を得て実施し、通報装置や消火器の使い方を確認し、避難場所を確保し、利用者が安全に避難出来る体制を整えている。また、地域防災訓練に利用者と参加し、ハザードマップ作りに協力しながら、地域との防災協力体制を築いている。	利用者の安全と夜勤者の不安を取り除くために、夜間想定避難訓練を頻繁に行い、職員の自信に繋げる工夫と災害時に備えて飲料水の確保はあるが、非常食の準備を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーと尊厳の研修を年一回実施し、現場でもスタッフ同士が言葉使い等を注意するように心がけております。	利用者のプライバシーを守る介護について、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮して小さな声や、出来るだけ自室に行って話するようにしている。また、利用者の個人記録の取り扱いや、職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報が漏洩しないように取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	現在の利用者様は希望の申し出が多く、「あれ買ってきて」「あそこ連れてって」など、できる限り対応させて頂いております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様にペースにいつも振り回されておりますが、現スタッフは帰りが遅くなったりしても、笑顔で対応頂き感謝しております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2月に一回の訪問理美容に始まり、髪の毛の乾かし方、までご指定頂いております。洋服選びも出来る方は、スタッフが介入せず好きにお着換えされておりますが、あまりに薄着だったり、着過ぎの場合は声掛けを行わせて頂いております。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に夕食を考え、お手伝いをたくさんさせて頂いておりましたが、新しい入居者様にスタッフが手を取られ現在は中止しております。食事は片づけは利用者様と一緒にさせて頂いております。	食事は利用者の楽しみな時間として捉え、職員は、利用者の嗜好を聴きながら、冷蔵庫の中身を見て献立を決め、普通の家庭のような食事作りをしている。簡単な下拵えや食器拭きは、利用者も一緒に行い、テーブルを囲んで利用者と職員が談笑しながら一緒に食べる様子は、アットホームで楽しい食事の時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、少ない方には声掛けや、特別食にて対応させて頂いております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼は軽めの口腔ケアにて対応、夕方はしっかり歯磨きをして頂いており、週1回訪問歯科にてしっかりと口腔ケアをして頂いております。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のレベルによりトイレの声掛けをさせて頂き、出来る方は日中布パンツにてお過ごし頂いております。	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行なっている。また、夜間帯も利用者の希望を聞きながらトイレ誘導を行い、利用者の羞恥心やプライドに配慮した、トイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動への働きかけや水分を多く勧める等の声掛けを行い、状況に応じて乳酸菌飲料をお勧めしております。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日などは決めずに、利用者様の希望に沿ってご入浴頂いております。入る順番は利用者様同士話し合っ決めて決める事もあります。	毎日お風呂を沸かし毎日入浴することも可能であるが、現在は、利用者の希望や体調に配慮し、週に2回の方がほとんどである。入浴を拒む利用者には、時間をずらし、声掛けに工夫して、無理強いしないで利用者の意向を尊重した入浴の支援を行っている。また、無理な場合は清拭や足浴に変更し、利用者の清潔保持に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠前薬や消灯時間を個々の利用者様に合わせて決めております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など分からない事があれば、担当医の先生や薬剤師さんに聞いたり、薬剤師さんの薬についての研修でもたくさん勉強させて頂きました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や個別散歩、自社デイサービスへの無料参加などして頂いておりますが、まだまだ足りてないと思い、日々何が出来るか考えております。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	緊急でない場合は日にちをずらしてもらったりしておりますが、買い物や銀行、郵便局のどへお連れしております。	気候の良い時期を利用して、公園の散歩、スーパーへの買い物、ドライブ、同一法人のデイサービスに出かける等、外出には積極的に取り組んでいる。また、家族の協力を得て好きな寿司を食べに行ったり、自宅に一時帰宅や外泊する等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は本人様にて管理していただいております。お金の管理ができない方も、ご家族様に確認の上、立て替えをしてお買い物頂いております。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられる状況にあります。お手紙も書いてもらったら、スタッフが帰宅時にポストに入れてもらったり、切手を貼って出したり対応しております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁の貼り絵を変えたり、クリスマスはクリスマスツリー、正月には鏡餅や正月飾りを季節感が感じられるようにしております。	住宅街の中の民家改造型の家庭的な環境で、窓際のサンルームから柔らかい日差しが差し込み、花や利用者の笑顔の写真が飾られて、温かで和やかな雰囲気である。台所からは、職員が手際よく進める調理の音や、美味しそうな料理の匂いが漂い、生活感や季節感を大切にした居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが狭く共用空間で一人になれる環境整備は難しいですが、席順を何度も変えたりして、その時々で話が合う利用者様同士が固まるようにはしております。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族様、ご本人様から要望を多く頂きます。ベットは危ないからお布団で。置をひいても良いか？この部屋狭いから広い部屋に移動したい等。	利用者のお気に入りの机や筆筒、仏壇、テレビ、人形やぬいぐるみ、家族の写真等を持ち込んで、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が不自由のない暮らしが出来るように支援し、安心して寛ぐことが出来る環境を整えている。居室の清掃、換気にも気を配り、利用者が安心して居心地良く暮らせる明るい居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センサーマットやベット柵に鈴を付けたり転倒に注意しつつ、見守りや声掛け、介助等個々の能力に合わせて介助させて頂いております。無理に介助に入らず、時間をおいたりして、気持ち良く介助を受けられる様に心掛けております。		